

1989.2
第5号

ともしび

●研究者として教育者として
—阿武喜美子氏に聞く—

1988年セミナーは、「新国内行動計画をめぐって」というテーマのもとに、九月二十三日、二十四日に大磯プリンスホテルで行われた。東京支部は例年通り研究発表と会場設営及び懇親会を担当した。研究は「在日留学生の生活と意見」と題して在日留学生へのアンケートと留學生問題に関係している方達との座談会を参考にして在日留学生の実態を発表した。会場設営と受付は、今年には神奈川支部の実行委員と合同で、本部、東京支部から選ばれた実行委員と共に役割分担を決めてこれに当った。前日までの準備、資料詰め等も中村会長始め青木企画委員長、山崎実行委員長のご協力もあって予定よりスムーズに運んだ。研究と実行委員を区別することによって支部委員の忙しさも緩和され、受付も開会後は会場内に移したので、研究報告、講演、分科会等、支部委員もセミナーに参加することが出来た。会場がホテルであった為、宿泊の件やコーヒープレイク等、ホテル側が当ってくれたので楽だった。まだ改善の余地があるが、或程度良くなったと思う。

(太刀川)

'88
セミナーを顧みて

セミナーこぼれ話

齊藤智恵

機会に恵まれ四月にJAUWに入会、日もまだ浅いというのにお手伝いならと借越にもセミナーの実行委員をお引受けし、七月十四日の会場下見の折は東京近郊JR線の大停電と言うハプニングにも遭いながらセミナーの日を迎えました。

申込みが多く企画委員会が嬉しい悲鳴をあげられたと言う各支部の発表は、限られた時間の中で溢れるような熱意と内容を以て、日常のごく身近な問題から国際的に大きく視野を拡げた問題まで実に多彩で示唆に富み、社会的経験の乏しい専業主婦の私は唯々圧倒されるばかりでしたが、一方でもう少し時間があればと発表の方々に同情致しました。

世は挙げて国際化の時代とは言え唯唱えるだけの国際化も多い中で、講師の先生方はその学識と豊富な国際的経験をもとに女性の問題を大きな視野で捉え、私達に大きな方向性を与えてくださったと思います。

又長い年月を費やし獲得しようとする努力して来た男女平等、同一賃金の問題にしても欧米諸国に於ては既に質的な変化を遂げていること、パー

トタイムも単純補助的労働からライフスタイルに合った労働へと変化しつつあること等、先進国に伍して行くにはまだまだ解決すべき問題が多々あって、その為に私達は今何を為すべきか、又留學生問題にしても日本から海外に行くことを考えた時代から、受け入れ方の問題に変わっている現状等、考えさせられることばかりでした。

懇親会では研究報告にあった二種類の行列の作り方A型、縦一列に並び順番に先に空いた所に行く(欧米人に圧倒的に多い)B型、一番早く順番が来ると思われる所に各々が並ぶ(日本人の大半)を早速応用、あなたA型、B型と一列に並んだものの列は一向に進まず、漸くご馳走の前に辿りついた時はあらかた消えた後でした。又、録音の打合せの折にまたま傍にあったテープを何気なく使用、ワイワイガヤガヤ、入っていると安心したのも束の間、ホテルのバックグラウンドミュージックテープと知った時の驚き、慌ててお詫び等の失敗もありましたが、諸先輩のご指導のもと、ともかく無事終了、良い経験をさせていただき感謝しています。



大学婦人協会の草創期を語る その②



『研究者として 教育者として』

—阿武^{あむの} 喜美子氏に聞く—

「新春のつどい」は、ひとに誘われて、本当に久しぶりにでかけました。大学婦人協会の集まりには、十年余りご無沙汰していたのです。今度、JAUWの昔の話をといたことでしたが、私が知っているのはごく限られた部分だけだからと、おことわりしたのですけれど……。

◇第一回総会のころ

戦後、ドクターホームズ（GHQ）女子高等教育顧問）のお勧めで、日本にも大学婦人協会をつくらうという事になったときに、女高師にも働きかけがあったらしく、大先輩の恩師でもあった保井先生、黒田先生から、私と湯浅さんに大学婦人協会の発会式に行ってくれるように言われて、出かけました。湯浅さんは昭和二十一年にフランスからシベリア経由で帰国して、物理学科の教授になっていました。私は十九年に化学科の教授になりましたので、二人ともなりたての教授だったわけです。私は、その頃あまりよく知らな

ったのですが、それ以前にA A U W（アメリカ大学婦人協会）の日本支部というものがあって、田中照子さん、天達文子さん、粕谷よしさんなど、戦前にアメリカの女子大学に留学していらした方達が、おやりになつていたのですね。

この第一回総会が二十二年五月に日本女子大で開かれたのですが、加盟校は八つでした。津田塾、東京女子大、日本女子大、聖心、東京と奈良の女高師、神戸女学院、同志社で、藤田たきさんが初代会長、田中照子さんが副会長になりました。

この時には出席しましたが、私はちょうど研究で忙しいころだったのですから、ほかに何もお手伝いしなかつたと思います。日本に大学令による「女子大学」の設立をという事で、ホームズ博士とご一緒に、文部省や議会の公聴会へ出かけたことはありましたけれど。

◇大学院そして米国学へ
ところが思いがけず、A A U Wの

国際奨学金をいただけることになり、昭和二十五年に、アメリカのオハイオ州立大学へ留学できることになりました。

私のそれ迄の研究生活ですが……昭和七年に女高師の理科を出てから、東京文理科大学（現筑波大）の化学科に入りました。

当時、理科を希望する女子が入れるところは東京か奈良の女高師しかなく、大学も文理大（東京と広島）と東北帝大がわずかに道を開いていただけでした。

十二年に文理大を卒業し、その後も研究を続けたいと思ったのですが、文理大には研究科がありませんでしたので、当時としては随分無謀なことだったので、東大の大学院に入れたいだろうかと考えました。しかし女子に対して門戸を開いておりませんから当然容易なことではありませんでした。

私は大学を出る頃から、天然有機物にだんだん興味をもつようになつておりましたので、知人のアドバイザーもあって、当時東大の農芸化学で、天然物化学の研究を展開しておられた藪田貞治郎教授にお願いしてみることになりました。藪田先生は三十九年に文化勲章もお受けになりました。

規則にもなく前例もないということ随分難航しましたが、結局研究生のような形で、実験だけさせてもらえることになったのです。一年間は試験されていたようなものですが。

この間に、藪田先生が、Tokyo Imperial University Calendarに、英文で書かれた規程の中に、大学院入学資格者として「学士の称号をもつ男子および女子」という一項があることをみつけて下さり、評議会にもかけて、十三年四月に大学院への入学を許可されました。女子の正規の東大大学院生の第一号でした。こんな訳で、専門は生物化学ですが、学位は農学博士です。

アメリカではGraduationとは大学院を出ることのようで、学位を持っていないと学生扱いされてしまうのですが、私は幸い学位をもっていたので、客員研究員として受け入れられ、研究室もいただきました。オハイオ州立大学化学教室で、炭水化合物の世界的権威でいられたWolfson教授の指導を受けて一年が過ぎ、もつとそこに居たいと思いましたが、A A U Wでは奨学金はできるだけ多くの人にあげたいので、延期は八月末までということでした。

しかし幸いなことに、Wolfson

教授のご推薦で、有名なNIH (National Institute of Health) の研究費をとっていただき、オハイオ大学での研究が続けられることになりました。女性だからという何の差別もなく、大変快適な充実した研究生活でした。そこに結局三年おりまして、帰国したのは二十八年の秋です。

◇大学婦人協会との関わり

帰った翌年から、大学婦人協会の仕事を、少しお手伝いするようになりました。奨学生の選考委員が初めて、三十年から国外奨学委員長を二年間やりました。この時に調べてみたのですが、AAUWの奨学生は、第一回が私の他に、日本女子大の野見山不二さんと東京女子大から文理大に行かれた伊吹知勢さんで、野見山さんはのちに会長になられ、また伊吹さんは副会長などの役員をなさいました。第二回に日本女子大の道喜美代さん、津田の佐野智恵さん、第四回には、やはり津田の高野フミさんがおられ、それぞれに大学婦人協会の役員として活躍されました。

私はこの他に、四十六・七年に監事、それから役員選考委員を数回、奨学金授与式での講演を、四十年と五十二年の二回、いたしました。しかしこうして数えあげてもこの位で、四十八年からはお茶大の理学部長をしていましたので、とても忙しくて、役員をお引受けできませんでした。



一九八三年七月、国際複合糖質シンポジウム(ロンネビイ・スウェーデン)のとき。

でも、JAUWによっていろいろな大学出身の方と知りあうことができて大変よかったです。

◇研究者として教育者として

二十四年にAAUWの奨学生に応募した時、帰国後の目的として「化学を通して、日本の女子の高等教育

に貢献したい」と書いたのです。このときはまだ三十代でしたが、七十八才の今日までずっと、そう考えてきました。私は研究者として自分の研究を発展させたいと願ったことはもちろんですが、同時に女子の研究者を育てることを非常によく希望して、今日までやってきたと言えると思います。

また私は、女子大学の存在意義に強い信念を持っています。戦後は、女子も共学大学と女子大学と、どちらも選べるようになったわけですが、どちらがいいかは、一概に言えないと思うのです。三十数年前の、私が留学していた頃のことではあります。共学が主流のアメリカにも、相当数の女子大学があってその中の東部の有名な女子大学五校を、帰国前に訪ねました。女子の教授が過半数で、大学院もありました。小規模ながら行き届いた指導の下に、大学教育が行われ、他大学の大学院でも社会に出て、よい評価を受けているとのことでした。

共学大学でも女子大学でも、教えることに差があつてはならないのです。ただ、対象の学生が女子だけだということなのです。本当の学問研究とはどういふものであるかを女子

に教える、それを目的としているのが女子大学なのだ、これも三十年間、言い続け思いつけてきたことなのです。(最近の「TIME」によると、アメリカでも女子大学の長所が見直されているようです。)

研究者であると同時に、教育者でありたいと願ってきたわけですが、良い協同研究者、教え子達に恵まれて、「出藍の誉」というような人も出て来まして、学会でもさかんに活躍しています。そういう意味で、私は非常に幸せだと思っています。

十月初めの薄曇りの一日、飯田橋の婦人情報センターの一室で、お話を伺った。先生は現在、お茶の水女子大学の名誉教授、国内での学会はもとより、国際学会では海外へ、また教え子達との懇親旅行にもおでかけになるとのこと。時折病氣もしましたが、足が丈夫なことが何よりですと、にっこりされた。

五十七年に勲三等宝冠章をお受けになった。また、今回の大学婦人協会の国際奨学基金募集に際して、先生から多額のご寄付をいただいたことを、付記しておく。

他支部活動紹介

神戸支部

みなさまの努力で四十年余を

佐藤すなほ

本部創立の翌昭和二十二年に誕生の神戸支部は、現在二七〇余名が神戸を中心に東西に幅広く居住しています。例会はほぼ芦屋市民会館で開催され、年十回の例会と行事が熱心に続けられております。役員方のご苦労も一しおで、同窓を越えた様々の大学出身の方々の深い交流の母体ともなっております。

活動を支える資金作りに、二年に一度の音楽会行事が定着し、今年も神戸文化ホールで清水和音さんのピアノリサイタルを開催しましたが、会員及びご友人多数の参加は嬉しうございました。この準備には財務委員が約一年前からとりかかり支部の大事業となっております。

神戸は留学生が四百名を越え、今年には六か国の留学生と青葉の須磨離宮公園で懇談会を催しました。彼等は母国のこと、勉学の動機、日本の生活を熱心に語り、母親のような私共との会合を喜んでおりました。

恒例のバスツアーは大阪を選び、好評でした。二月は懇親会を催し、二年間の奨学金授与生も招き、多数の会員のお話を伺う予定しております。

神奈川支部

房野 桂

いつも東京支部の催しにはお誘いいただき、感謝しております。本年五月に、若輩ながら支部長をお引受けしてから、会長、副会長をはじめ、東京支部の皆様の暖かいお励ましをいただき、神奈川支部も、月々の例会やセミナーのための研究会、講演会など、少しずつ軌道に乗った活動を始めたところでです。

県の神奈川女性会議、横浜市の女性フォーラムなどの集まりにも、できるだけ積極的に参加するように心がけています。

現在会員は四三名ですが、魅力ある企画を考えて、若い会員を増やして行きたいと考えています。

十二月十六日には、元デンマーク大使の高橋展子さんの「世界の女性はいま」と題する講演会をいたしました。また、有志の人達で「気になる日本語を話し合う会」も発足したところですが、例会の度に、ミニ・パーティーをして活動資金を生み出してい

ます。

来年のセミナーも、当地神奈川で開かれるとのこと、支部会員一同また一丸となって働く所存です。



講演会

近藤 誠氏

「ガン治療と告知」から

前号で御紹介しました慶応大の近藤誠先生をお迎えし、ガン（告知等の問題）についてお話をうかがいました。（十一月五日・婦選会館）

「ガン病棟に異変あり」で書かれた内容をスライドを交え、詳しくうかがったのですが、その中で乳がんの手術法について、現在の日本の病院で行っている手術が「昔前の方法で、

外国では殆ど行われていないものだ」というショッキングな事実。片方はアバラ骨が見える程とり去られ、一方は乳房をそのまま残して、手術跡もわからない程のもの。二葉のスライドを比較して息をのむ思いでした。日本で初めてその乳房保存の手術を受けた猪狩さん（近藤先生のお姉様）に手記を戴きましたので、掲載し、御参考にさせていただきます。

手術を受けて

猪狩和子

自分の胸に小豆つぶ位のかたまりのあるのに気づいたのは高校時代の友達の死がきっかけでした。

それは偶然としかいいようのないことで、いたくもかゆくもない日常でしたので最初の病院には念のため位の気持で行ったのでした。レントゲンにも超音波にもうつらないほどの小さいものでしたのに、生検にだした結果は悪く一週間後の抜糸では「二、三日うちに胸を全部とる手術をします」と先生にいわれました。

自分のこととして受けとめるのはあまりにも重大で急なことでしたが、そのときはそれしか助かる方法がないと思いましたが、心を落ち着けるのがせいっぱいでした。

弟に相談して欧米では胸をとらない手術が行われていることを知り、自分の判断でそのやり方でしてもらいましたが、それからもう五年たちますが、毎日思ひ出すこともない日常です。後に新聞記事で、私とその手術の第一号だったことを知りました。

いろいろ説明をうけて、自分で選ぶことのできるように日本も早くなれたらと思っております。

留学生との交わりの中で

女地英子

近頃外国からの留学生と思われる若者によく出会うようになりました。またマスコミでも連日のように留学生の経済問題や日本語学校の問題、あるいは保証人の問題など取り上げられていきますので、留学生に関心をお持ちの方もおられると思います。私は東京YWCAの「留学生の母親」運動を通じて、二十年来彼らと接してきた体験から、日常の交流の一端をお伝えしたいと思います。

夫が米国滞在中、ホストファミリーの生き方にインスパイアされ、大きな影響を受けた経験から、私共も外国からの留学生のお手伝いができないものかと思っていた時に、東京YWCAの「留学生の母親」運動の存在を知り、参加しました。この運動は、YWCAが留学生と日本の家庭を組み合せ、その交流を通して人種や言葉の違いを超えて理解し合ひ、心の深いつながりを作ってゆこうというの大きな目的です。運動全体としての行事もありますが、日常的には、留学生の良き隣人として家庭に招き、悩みの相談相手となり、日本での勉学の成果が上るよう協力し

てゆく事を主な仕事としています。

私は二十一年間に、タイ、マレーシア、台湾からの留学生八名との組み合わせを持ちました。タイからの男子留学生は、日本語学習の一年間を含めて、大学、大学院と十年間日本に滞在し、博士号を取得して帰国しました。この間様々な交流がありましたが、今程お互いの国の情報が豊かではない頃でしたので、我が家の大掃除を手伝ってもらいながら日本の習慣や考え方を理解してもらったり、タイの写真を見ながら、まだ電気もガスもないというタイの田舎の生活に思いを馳せたりしました。専攻分野がたまたま夫と近かったため、大学進学の際にアドバイスできたことは幸いでした。当時から、日本人学生の勉強離れが指摘されておりましたが、留学生達は、帰国後は、故国を背負ってゆくのだという気迫を持って励んでおり、終戦直後の日本の若者の姿を見る思いがしました。現在彼は故国の大学で教えておりますが、今度は自分が外国からの学生をお世話しようという気持ちになってくれたのが何よりの喜びです。

マレーシアからの女子留学生は、大学時代に知り合った日本人男性と結婚し、日本に帰化しました。彼女の結婚に際し、結婚届や帰化の問題など法律的な勉強をさせてもらいました。また結婚式には、彼女の日本の「母親」として出席し、自分の子供達の時より一足早く花嫁の母親の体験もしました。母親として、十分ながらも衣替え、お節句、おせち料理など、日本人としての「常識」を教えたりもしました。

彼らの他、日本の企業に就職した者、地方の大学で学ぶ者、また現在日本語を勉強中で大学入学を目指す者と様々です。二十年の間には、彼らの行動がどうしても理解できず、その上言葉がお互いによく通じないことも手伝って気まずくなったこと、また思いもかけぬ事実の出現に気も動転し、涙したこともありましたが、しかし、交流は各人各様、粗密はありますが、跡切れることなく続いています。これは交流を通して、お互いに考え、学びそして信頼感が生まれてきた証しかと思えます。

今日、留学生問題は多様化しており、交流も難しくなってきたり、しかし留学生に関心をお持ちでしたら、信頼のおける機関を通して彼らとの交流を持たれてはいかがでしょうか。きっと新しい輪が広がることと思えます。

☆タックス奮闘記

上羽舞子

Invitation to the Walk

一回目一二三、一二三、まるで体操をしているようなAさん、こぶしを握り、腕を振って拍子をとりながら一生懸命です。クイック、クイック、スロー、クイック、クイック。二回目マンボ？ ジルバ？ ルンバかしら？ まず音楽をききわけてからステップを思い出すのでは到底間に合いません。リズム感覚、音楽、耳の訓練も大切な要素。ですから頭の体操にもよろしいのです。六回目ダンスの魅力にすっかり取りつかれ、皆動をめざして頑張っています。Bさん、腰痛は軽快なさいましたか。Cさんはスカートがゆるゆるになり始めたそうですよ。九回目とうとう先生と踊って頂けるようになりました。最初はびくびくどきどきでしたが、今は楽しく踊れます。先生のご忍耐に感謝。

こうしてひと夏汗を流した私どもは中級クラスに進級し、タックスからスワンへ、体操からダンスへと変身しつつあります。十月からまた初級クラスが増設されました。美と健康と教養のために、皆様も如何ですか。

東京支部新入会員

(昭和63年10月現在)

Table with columns: 氏名, 出身校, 住所, 氏名, 出身校, 住所. Lists new members and their details.

【物故会員】

Table with columns: 氏名, 出身校, 住所, 死亡年月日. Lists deceased members.

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

Hello!

—英会話グループより—

英会話の講座を、という声は前からあったが、思いがけず会員の石塚先生が講師をお引き受け下さる...

英語だけは苦手・英語は好きだが...

教会はダメ!・外人に道を聞かれて話せられなかったのが残念・暫く使っていないので錆落としてしに...

編集後記



◆前号で皆様の御協力をお願いしましたレクチャー&コンサートは途中...

それにしても〇〇生まれとはとても思えない先生の若さ、気力にあまりかたいたい方、経験豊かなお話を...

■長梅雨、冷夏、秋の長雨と異常気象が続いた昭和六十三年でした。今年...

ともしび 五号 発行日 一九八九年二月一日 発行 大学婦人協会東京支部 編集責任者 若井綾子 〒160 新宿区新宿七十七 十八戸山マンション二四一 号 Tel〇三二二〇二二〇五七二 印刷 タナカ印刷機